

「会員増強におもう」

from DISTRICT CHAIRMAN

杉本 直
(京都伏見ロータリークラブ)



ロータリーは奉仕の志を持つ人達の集まりで、ポール・ハリスが1905年に提唱し、4名で発足して以来、新しい人々の入会により、クラブが若返りながら増強・拡大を続けて来たお陰で、100年を経て世界214の国と地域で122万人の会員を擁する団体に成長して来ました。

当2650地区では1997年6月末に6713名に達しましたが、その後14年間毎年平均150名(1クラブ当り1.5名)の減少を辿っています。これに対しRIも種々の制度改革を行っていますが、その傾向を止める迄には到っていません。千玄室元RI理事も地区協議会の基調講演でも触れておられましたが、今や会員増強は良し悪しは別として地区のメインテーマになった感があります。

新会員が無いのではありません。当地区では年間平均約300名(1クラブ当り3名)の方々に入会して戴いておりますが、それを上廻る約450名(1クラブ当り4.5名)の退会者がおられます。何故でしょう。その原因を単に不況、不景気とするのでは無く(勿論それも大変大きな要因ではありますが)その意味を考える必要が有ると思います。

今、ロータリークラブはそのクラブのロータリアンに会費に見合う対価を提供出来ていないのではないのでしょうか。新しい価値観を持つ世代が登場しています。その世代をも巻き込む、対価あるロータリー活動を考える必要が有ります。忘れる事の出来ない感動を実感、共有出来るロータリーならではの奉仕・サービス活動。これを各クラブの会長を中心とした理事会がその会員に提供出来るならば、退会者も減少し増強にも繋がると考えます。難しい事ですが、5大奉仕を通し会員が感動体験を共有し、向上に資する事が出来る「会員の為の活動」を創造する。懐古・現状維持では意味がありません。これは私達の会社経営でも同様です。お客様、従業員にどのような感動を提供するのか、常に考え続けなければなりません。過去の成功体験依存、現状満足では存続は覚束きません。

会員増強は全体的な視点で考える必要が有ります。その為にも年齢・性別・国籍に対する偏見排除は勿論の事、ロータリーの魅力を再確認すると共に、再構築をしていかなくてはなりません。今RI・地区ではその活動を推進するべく懸命の活動が展開されています。余りに熱心なので会員増強は地区の為であり、地区の問題なのだど勘違いされるロータリアンもおられる程です。しかし、会員増強は各々のクラブの存続に関わるクラブ自身の問題です。増強に於ける困難な点、やるべき方法論は今迄の委員長を中心とした委員会活動の中で討論し尽された感があります。あとは行動あるのみです。

新会員入会迄の苦労は大変なものです。会長が中心となり、増強委員長そして志ある人達が強い決意を持って活動を継続しなくてはなりません。その努力を無にしない為にも、クラブ活動の充実は必須であります。私達会員増強・拡大委員会は単に私達委員会だけの問題としてでは無く、地区諮問委員、委員長経験者の方々にも御指導を戴き、前年度同様他の委員会との連携を通してロータリーの向上を目指していこうと考えています。

杉本 直(すぎもと ただし)

ロータリー歴

1996年5月10日	京都伏見ロータリークラブ入会
2004年～2005年	クラブ幹事
2008年～2009年	クラブ会長
2009年～2010年	地区会員増強・拡大委員会副委員長
2010年～	地区会員増強・拡大委員会委員長